

講義名	教養特講 (生活のための金融知識)			授業形態	
担当教員	福田 司文	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

学生、社会人は自立した経済生活が求められます。そのためには経済がどのような仕組みになっているのか関心を持つことが必要です。この授業ではお金と生活の仕組みを理解することをテーマとして、金融問題や経済問題に目を向ける機会をつくってゆきます。本学の専門科目には金融に関する講義が開講されていますが、専門的な内容よりもっと平易な内容で関心を持てるような内容になると考えています。また、カバーする金融の範囲を幅広く、今後生活で関心を持つトピックを選択しています。この授業を通じて専門課程で学ぶ経済や経営の基礎力を鍛えてください。

到達目標

- (1) お金の基本的な仕組みが理解できる。
- (2) お金と自分の生活の関わり合いについて関心を持てるようにする。
- (3) ニュースに現れる金融問題や使われている用語の意味が理解できるようにする。

提出課題

授業で簡単な演習や授業内容に理解度を問う問題を通じて理解を確かめる。Respon利用予定。一部分は課題を与えることもあります。課題が出たときは自主的に自分で調べてレポートを作成してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題について質疑応答して解説します。

評価の基準

提出課題の毎回の内容の理解度を総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

金融や経済の問題に関心を持ってください。関心がなければ何もしません。ネットのニュースサイトで、ときどきは経済ニュースをチェックしてみてください。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

授業内容の資料を配付します。それに沿って授業を進めます。

授業計画

1. 経済の資金の流れ
2. 金融機関の役割
3. 金融の中心-金利について
4. 金利と消費者の借入
5. 株式保有と株式の役割
6. 企業間関係、株主
7. 株主変動
8. 株主変動および投資信託
9. 不動産価格
10. 不動産価格と不動産ローン
11. 貿易と外国為替入門
12. 外国為替
13. 社会保険(年金制度と年金給付)
14. 社会保険(年金給付、医療保険)
15. お金の心理

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習よりも復習に力を入れます。本学では2単位を修得するためには15回の授業と、1回の授業に対して4時間の予習復習が等の教室外学修が必要となっています。課された課題について自ら復習してください。また、課された課題こなすだけでなく、金融問題について自分で興味を持って調べましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

生涯を通じて学ぶにあたっての基盤を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養う科目群が教養特講と呼んでいる科目群です。この科目は社会経済環境の変化に応じた学びを身につけるための素養を提供します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考